

地域別の課題等について

(※データは、特に記載のない場合は2010年国勢調査による)

北部地域 (丹後・中丹)

現状・課題

○社会減(△2,950人、2005年～2010年の5年間)の主たる原因は、大学進学等の時期に相当する15～19歳人口の転出

※北部地域の高校の卒業生(2011年3,190人)のうち、

- ・76%は大学・専修学校等に進学(2,431人。半分以上が京都府内)
- ・20%は就職(638人) 【出典：2011年度学校基本調査】

○大学卒業後の就職年齢を含む20～24歳人口は転入超過となっているが、中丹地域では転出超過した15～19歳人口と同程度の人数が転入超過となっている一方で、丹後地域は転出超過の3分の1程度の転入超過にとどまり、都市部に転出した若者の多くが戻ってきていない状況

※丹後地域に住み続けたくない理由【出典：2014年府民意識調査】

- ①働く場(51%) ②生活の利便性(34%)

- ⇒ ○大学等進学で転出した若者等をいかに呼び戻すか
- 高校卒業後の若者の流出をいかに少なくするか

戦略の方向性

- 若者が魅力を感じられるしごとづくり
- 若者が戻って暮らしてもよいと思える(都会に負けない)生活環境づくり
- 圏域で学び、働くことのできる環境の提供

具体の施策例

- 地域産業の高度化、新規投資・起業等による魅力的なしごとの創出
 - ・大学COC事業等によるものづくり産業(特に織物業、機械金属業)、サービス産業の高度化
 - ・「海の京都」、「丹後10次産業化」等による飲食・観光サービス業の拡充
 - ・金融機関と連携した投資ファンド創設等の設備投資支援

○都市間の役割分担・連携による病院、文化・商業施設等の都市機能の向上(中核市クラスに相当する都市機能確保)

○圏域内のどこからでも通勤・通学・おでかけができ、病院や商業施設等にアクセスできる広域交通ネットワークの形成

○京都市内へ通勤・通学できる交通環境の改善(JRダイヤ改正、京都縦貫自動車道開通)
○圏域内の通勤環境の改善(たとえば、丹後地域→中丹地域の工場等へのオンデマンドバスの実現)

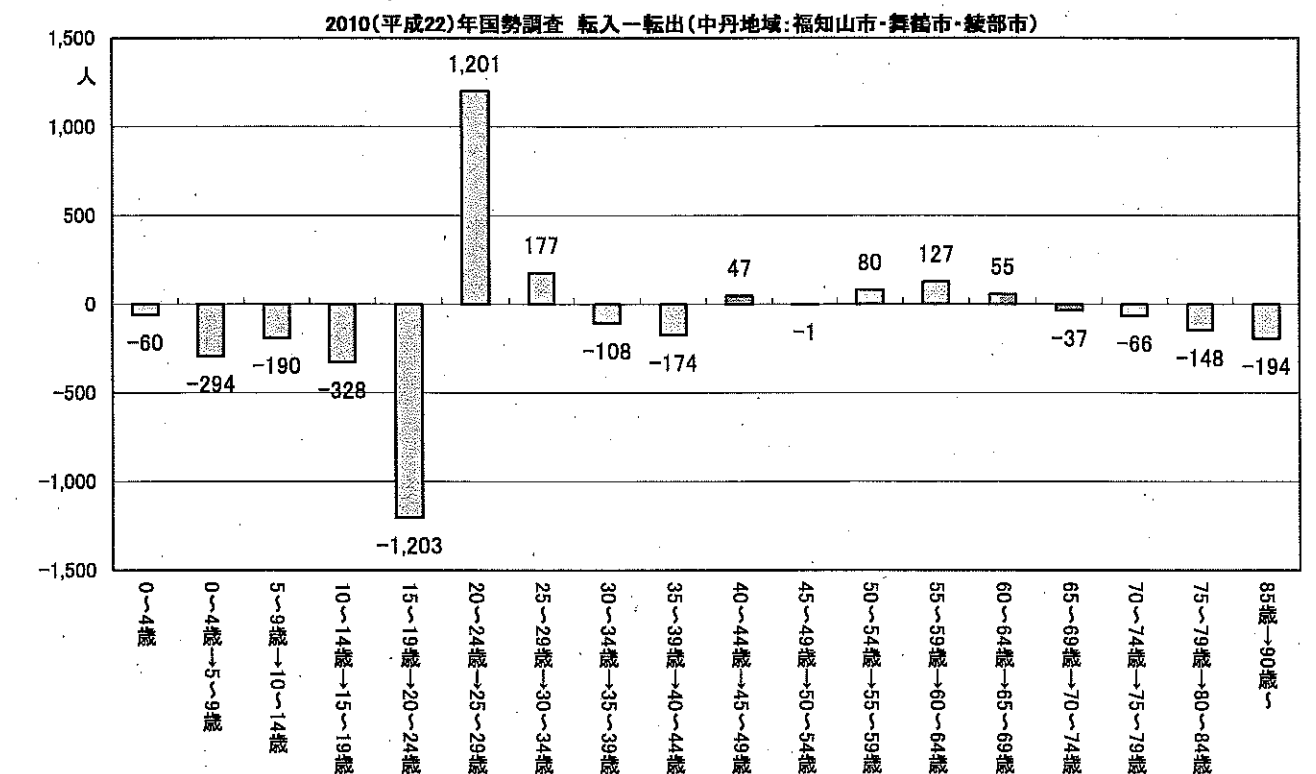
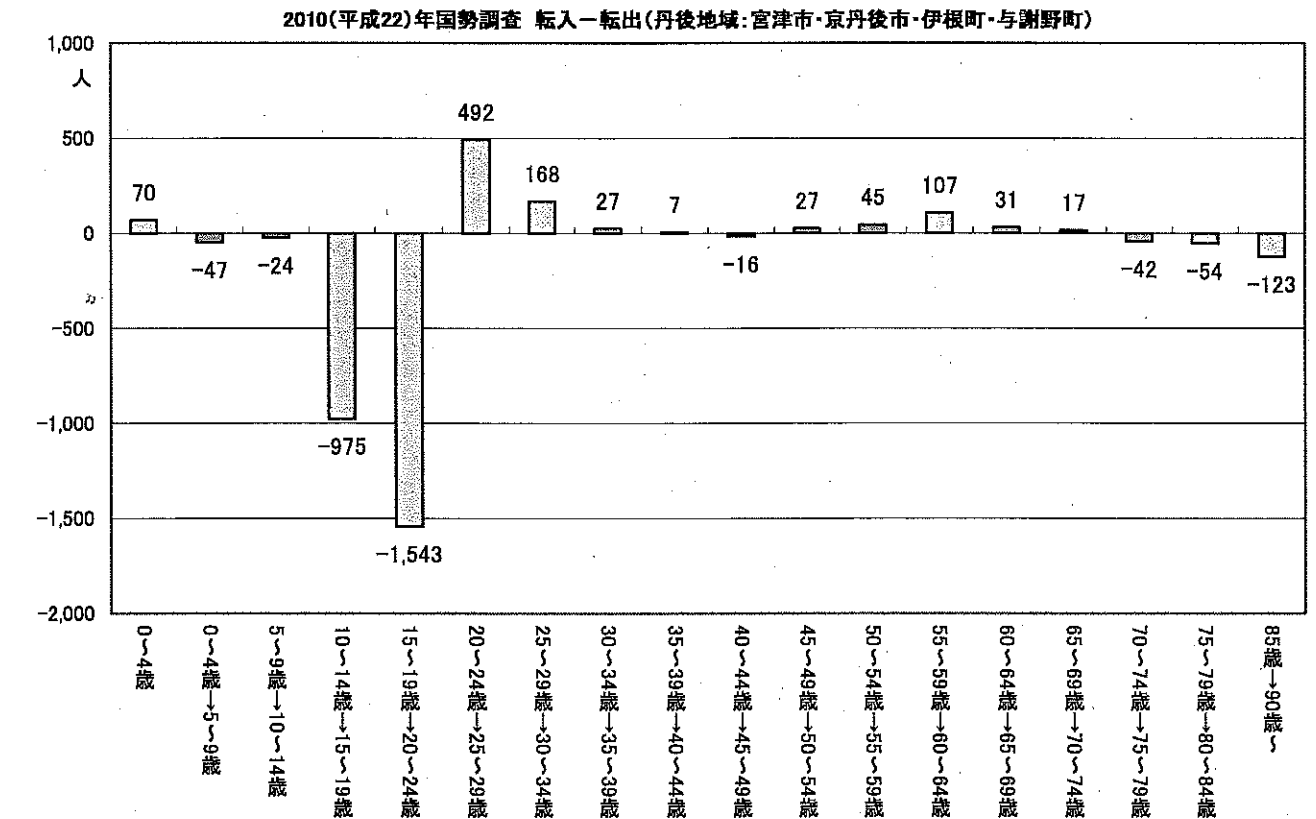
※福知山市へは、兵庫県から3,103人が通勤しているが、丹後地域からは1,040人(丹後地域の就業者数の2%)しか通勤していない。

<北部地域の基礎データ>

出典：国勢調査(総人口・社会増減)、人口動態統計(出生数)、人口動態保健所・市区町村別統計(合計特殊出生率)

福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町

- 総人口(2010年)：309,007人
- 出生数(2010年)：2,499人
- 社会増減(2005年～2010年の5年間)：△2,950人(※国外への転出者及び転出入不詳を除く)
- 合計特殊出生率(平成20年～平成24年)：福知山市=1.96、舞鶴市=1.87、綾部市=1.63、宮津市=1.65、京丹後市=1.73、伊根町=1.51、与謝野町=1.71



○中部地域（南丹）

現状・課題

○進学年齢を含む19歳以下の人口は転入超過だが、トータルでは△218人と若干転出超過
 ※南丹地域の特徴ある多様な教育機関と在 student 数【出典：京都府調べ】

- ・京都府立林業大学校（西日本唯一。在 student 43人）
 - ・京都美術工芸大学（全国唯一の工芸学部に、文化財修復コースを有する大学。在 student 174人）
 - ・京都伝統工芸大学校（全国唯一の伝統工芸技術の後継者育成機関。在 student 355人）
 - ・京都建築大学校（2級建築士資格と放送大学卒業資格取得制度を有する機関。在 student 1,126人）
 - ・明治国際医療大学（全国初の鍼灸短期大学として建学。在 student 642人）
- （以上の学校の在 student 計2,340人）

○特に大学等を卒業し就職する年代である20～24歳人口が△1,185人と大幅に転出超過

※南丹地域からの転出先

- 15歳以上就業人口の圏域外への転出者6736人のうち、京都市への転出が3割
- ・京都市が2,073人（30%）
 - ・大阪府が979人（15%）、兵庫県が452人（7%）

⇒ ○大学等卒業後の就職時の若者の流出をいかに少なくするか

戦略の方向性

- 若者が魅力を感じられるしごとづくり
- 豊かな里山環境を活かした新たな若者の呼び込み
- 京都市等へ通勤が可能な環境整備

具体の施策例

- 農・林・工芸・建築・医療・福祉等多様な分野の教育・研究機関と連携した複合産業の創出（林業×工芸、林業×観光、健康医療×スポーツ等）
- 空き家や廃校等を活用した起業の場やアーティスト活動等の場の提供
 ※平成23年度以降9小学校が廃校【出典：京都府調べ】
 ※40人超の工芸作家等が地域内で創作活動中【出典：南丹市工芸家協会HP等】

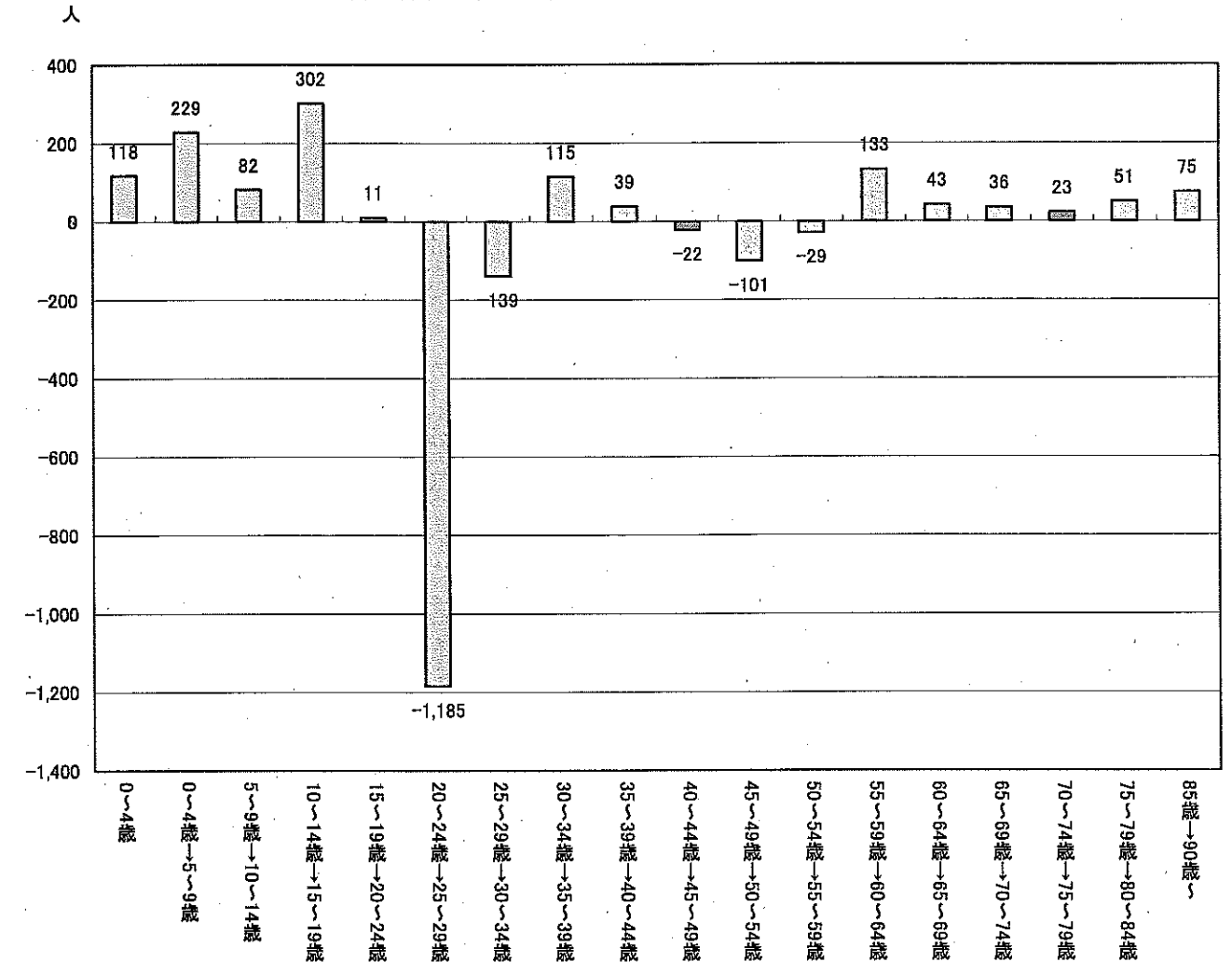
- JRの駅と周辺集落を結び通勤のための交通ネットワークの構築
 ※旧美山町、旧瑞穂町などはJR駅までの通勤・通学時間帯にバスがない

<中部地域の基礎データ>

亀岡市・南丹市・京丹波町

- 総人口（2010年）：143,345人
- 出生数（2010年）：1,059人
- 社会増減（2005年～2010年の5年間）：△218人（※国外への転出者及び転出入不詳を除く）
- 合計特殊出生率（平成20年～平成24年）：亀岡市=1.32、南丹市=1.38、京丹波町=1.4

2010(平成22)年国勢調査 転入-転出(南丹地域:亀岡市・南丹市・京丹波町)



○南部地域（京都市・乙訓・山城北・学研・相楽東部）

現状・課題

- 大学卒業・就職時年齢を含む20～24歳の人口は転出超過
- 京都市、乙訓地域、学研地域は全体として社会増
 - ・中でも学研地域は、20～24歳以外の全ての年齢階層で転入超過となっており、転入超過数が2005年から2010年の5年間で約1万人であり、総人口も増加
- 一方、相楽東部地域は、全ての年齢階層において転出超過

※相楽東部地域からの流出先

- 15歳以上就業人口の転出者447人のうち、
 - ・木津川市が126人（28%）
 - ・奈良県が66人（15%）、大阪府が59人（13%）

○以上のように、南部地域は、人口が流入し総人口の増加が見込まれる地域と人口が流出し人口減少が深刻な地域とが隣接して存在

⇒ ○人口増加（社会増）地域の活力を人口減少地域にいかに波及させるか

戦略の方向性

- 人口増加（社会増）地域住民と人口減少（社会減）地域住民との交流促進
- 人口増加（社会増）地域の活力の維持向上

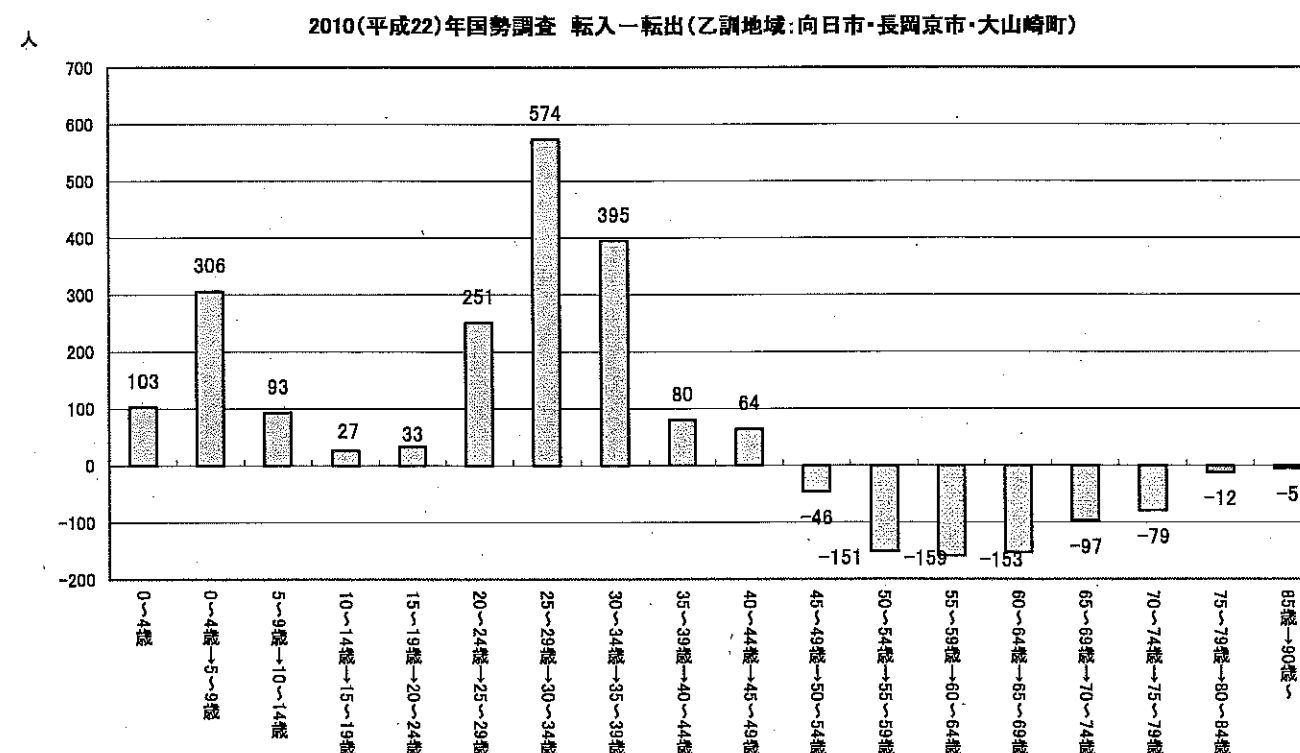
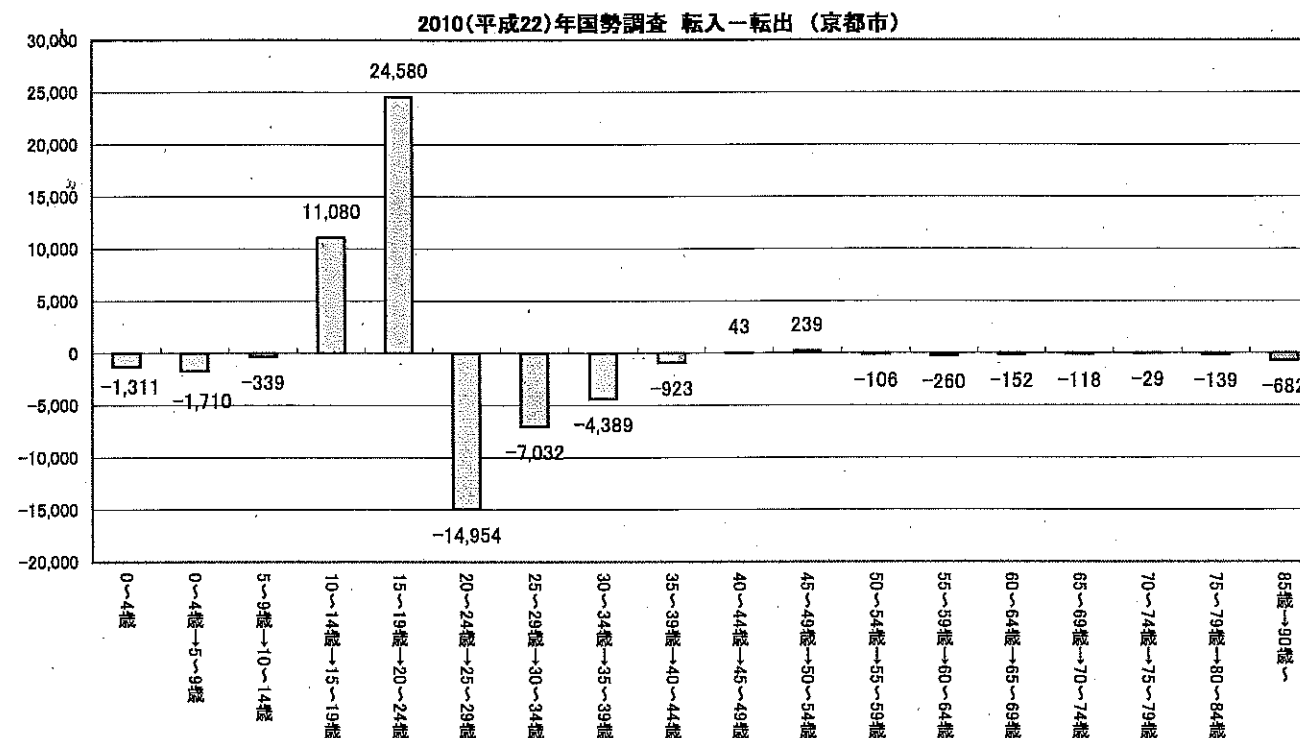
具体の施策例

- ICTや学研都市の研究成果を活かした農業革新による若者等の定着
 - ※南部地域は定住が基本の農業就業者比率が低い（1.1%、京都府平均2.0%）
 - ※農業革新の例
 - ・クラウド農業による若者の茶業への参画
 - ・ロボット技術による農業従事者の体力的負担軽減
- 廃校等を活用した交流拠点の整備
 - ※南山城村：旧田山小学校の木造校舎は、カフェ・そば、工房、ギャラリーに活用されるとともに、地域の伝統文化を伝承する地域活動にも利用されるなど交流拠点となっている
- 農家レストラン・民宿等を活かした都市住民との交流促進
 - ※農家民宿確認数 0件（京都府全体51件）【出典：京都府調べ】
- 農村の空き家等を活用した都市住民の週末移住
 - ※貸し農園数 46件（京都府全体62件）【出典：京都府調べ】
- 学研地域への産業立地の促進（企業・研究機関誘致）
- 新名神開通を見据えた物流拠点整備の推進

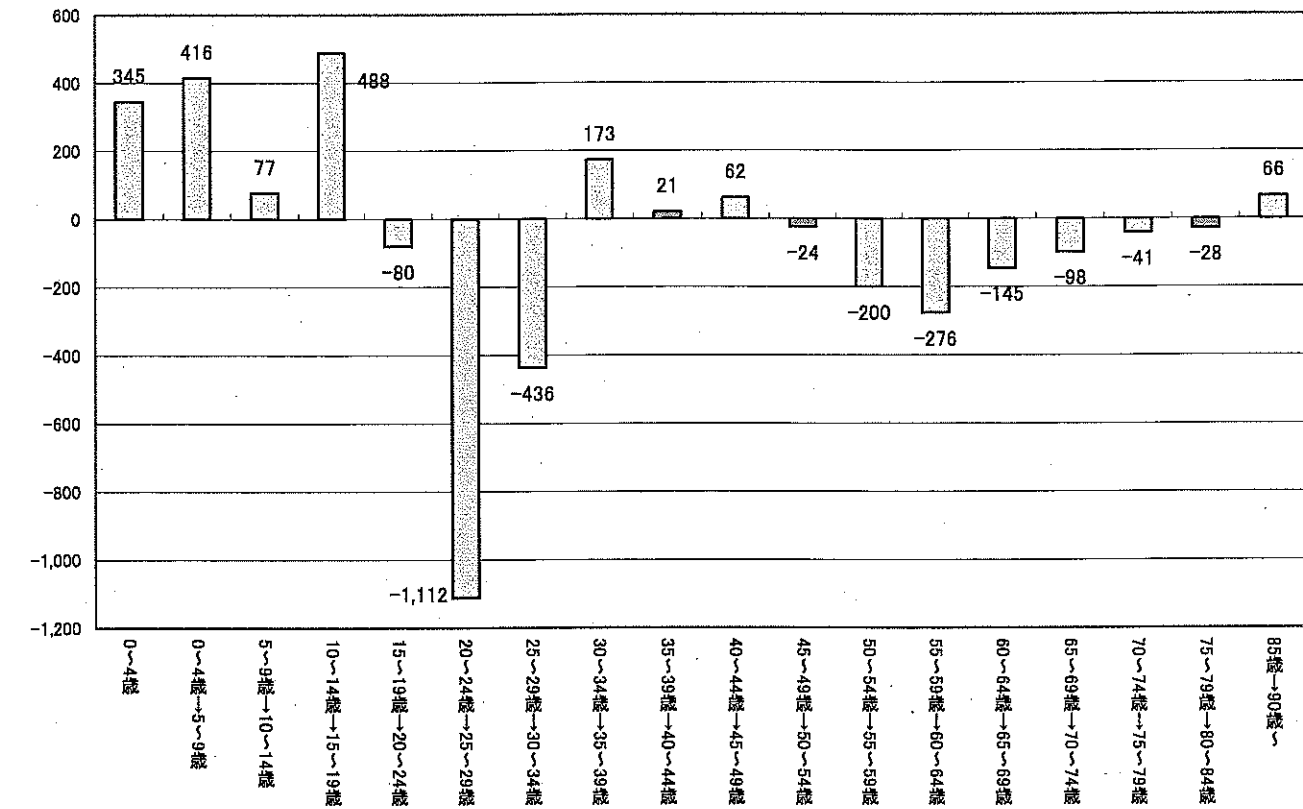
<南部地域の基礎データ>

京都市・宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・木津川市・大山崎町・久御山町・井手町・宇治田原町・精華町・笠置町・和束町・南山城村

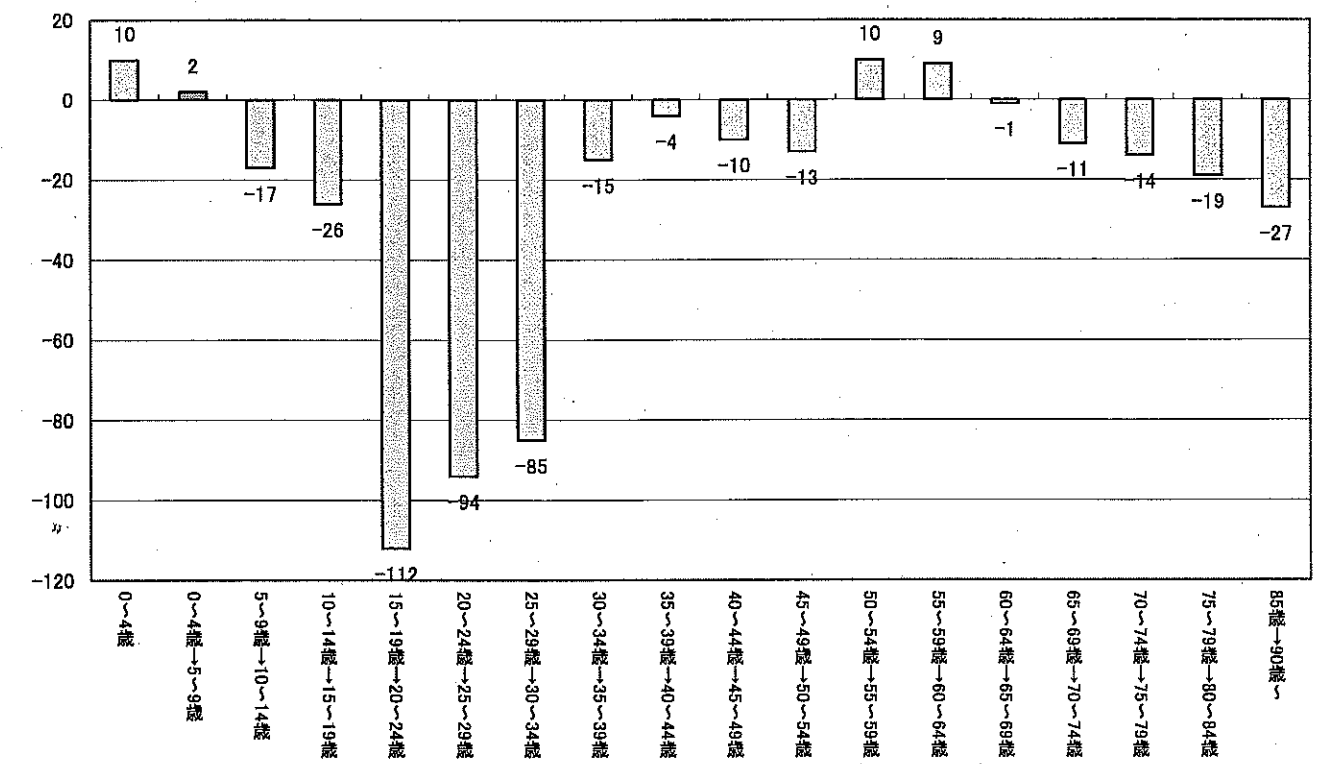
- 総人口（2010年）：2,183,740人
- 出生数（2010年）：17,676人
- 社会増減（2005年～2010年の5年間）：14,251人（※国外への転出者及び転出入不詳を除く）
- 合計特殊出生率（平成20年～平成24年）：京都市=1.16、宇治市=1.35、城陽市=1.27、向日市=1.37、長岡京市=1.38、八幡市=1.37、京田辺市=1.35、木津川市=1.54、大山崎町=1.38、久御山町=1.47、井手町=1.33、宇治田原町=1.36、笠置町=1.09、和束町=1.18、精華町=1.33、南山城村=1.05



2010(平成22)年国勢調査 転入—転出 (山城北地域:宇治市・城陽市・八幡市・久御山町・井手町・宇治田原町)



2010(平成22)年国勢調査 転入—転出 (相模東部地域:笠置町・和束町・南山城村)



2010(平成22)年国勢調査 転入—転出 (学研地域:京田辺市・木津川市・精華町)

